

第6回中丹管内二級河川流域治水協議会を開催しました

流域治水の推進に向け、**野原川、瀬崎川、大丹生川水系**の流域治水プロジェクトを策定しました。また、昨年度までに策定済の**伊佐津川、高野川、河辺川、朝来川、志楽川、祖母谷川、与保呂川、福井川水系**の流域治水プロジェクトについて、フォローアップを実施しました。

○開催概要

日時	令和5年11月30日（木） 13:30~14:30
開催形式	Web開催（Zoom）
議題	(1) 流域治水プロジェクト新規策定について (2) 流域治水プロジェクトフォローアップについて (3) 今後の進め方について

○出席者と主な意見

（舞鶴市 白木建設部長(代理出席)）

近年の激甚化する災害に対応するため、早期避難を促すためのソフト対策の充実を図るとともに、西市街地、東市街地での浸水対策等、ハード対策を着実に進めていきたい。

（綾部市 仲井建設課長(代理出席)）

伊佐津川水系での取り組みを引き続き推進していくとともに、他機関の対策事例を参考に、新たな取り組みについても検討していきたい。

（京都府中丹広域振興局地域連携・振興部 田中総務防災課係長(代理出席)）

水害等避難行動タイムラインは、作成の過程において、避難のタイミングや避難場所について地域全体で確認し、避難するという機運が高まることが重要である。逃げ遅れがなくなるよう、引き続きタイムライン作成の推進について、各市と協力していきたい。

（京都府中丹広域振興局建設部 細井部長）

河川、砂防の管理者として、ハード整備を担っており、確実な予算確保に努め、着実に整備を進めていくことが責務と考えている。台風第7号では、山間部からの土砂や流木の流出により被害が拡大したところもあり、改めて流域全体での治水対策の必要性を痛感したところ。引き続き、各機関によるプロジェクトの推進をお願いしたい。

（京都府中丹広域振興局農林商工部 岡田部長）

台風第7号の豪雨災害では、治山ダムが効果を発揮した一方で、山間部からの土砂や流木の流出による被害も発生したことから、改めて流域の最上流に当たる森林の維持管理の大切さを再認識したところ。引き続き、森林の整備保全、治山ダムの整備、ため池及び農業用水路の整備等のハード対策を進めるとともに、ハザードマップやため池点検、治山ダムの見学会等のソフト対策も実施しながら、関係機関と連携し、地域で一体となった流域治水に取り組んでいきたい。

（京都府水産事務所 粟屋所長）

水産事務所では、引き続き舞鶴漁港の浚渫等に取り組んでいく。最下流部での浚渫がどの程度治水に効果があるか、漁港整備の一環として治水に貢献できる事例があれば知りたい。土砂の流出抑制対策は泊地の埋塞を防ぐことにもつながり、引き続き取り組みをお願いしたい。

（京都府建設交通部 濱田部長）

ハード整備のみでは危険を除去しきれないという前提に立ち、予め避難について決めておくことは最優先事項であり、タイムラインの作成は非常に重要である。建設交通部では現在、水位予測システムを試験運用しており、タイムラインの作成で活用できるように精度を高めているところ。また、まちづくりにより治水安全度を上げていくことも必要な視点である。

（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター近畿北陸整備局 松林局長）

針広混交林や育成複層林の造成に加え、流木災害防止の観点から販売可能な間伐木の搬出利用を図る等、流域治水に貢献できるよう計画的な森林整備を進めていきたい。



※京都府港湾局は欠席

協議会の様子